

第2回 加茂川総合内水対策協議会 議事録

日 時:平成 24 年 5 月 31 日(木)10:00~11:00

場 所:美濃加茂市役所本庁舎3階第一議会委員会室

出席者:市)海老和允美濃加茂市副市長、伊藤秀樹美濃加茂市総務部長、

丹羽英治美濃加茂市技術総括部長

町)南山宗之坂祝町長、三品智裕坂祝町総務課長、

小関昇坂祝町産業建設課長

国)浅野和広木曾川上流河川事務所長、

上野広志木曾川上流河川事務所副所長

県)岩崎福久岐阜県県土整備部次長兼河川課長、近藤真章可茂土木事務所長

民)五島俊学若宮一自治会長(美濃加茂市)

澤田嘉弘下町六自治会長(美濃加茂市)

丹羽孝次深田一自治会長(美濃加茂市)

北村康廣酒倉連合自治会長(坂祝町)

協議事項: 1. 加茂川総合治水対策(案)について

1. 加茂川総合治水対策(案)について

木曾川上流河川事務所調査課長が、加茂川流域の現状及び治水対策メニューについて説明した後、美濃加茂市都市計画課係長が、治水対策(案)のそれぞれのメニューについて説明し、その内容について委員から次のような意見が出た。

【若宮一自治会長】

市民生活を送るには、安心安全な生活基盤が一番大事である。

【下町六自治会長】

本川である木曾川の逆流の対策を進めていただきたい。

【深田一自治会長】

下流(浸水地域)の現状を上流の地域の方にも広報や宣伝して伝えていただきたい。上流でも水を少しでも抑えるよう協力していただけると被害も少なくなるのではないかと。

樋門施設のパトロールや点検等管理も大切である。

【酒倉連合自治会長】

加茂川の氾濫の原因は木曾川からの逆流である。加茂川の整備よりも、木曾川の整備をすることが重要である。新丸山ダムの早期着工が必要である。

木曾川上流域のダムとの連携をしっかりとってもらいたい。

【坂祝町長】

新丸山ダムの建設の見通しが全くたっていない状況で、我々自身で自分たちの地域を守っていくために、最大限の対策をやっていかなければならない。

新丸山ダム建設の国への要望は引き続き強力に要望していきたい。

資金的な点から、膨大ではなく、ある程度シンプルで前に進んでいくように応急対策的なものをやりながら恒久対策に結び付けていくという考え方でいきたい。

【美濃加茂市副市長】

施策について、浸水地域の住民にだけへのお願いはおかしいので、流域全体についてお願いやPR活動をしたい。

新丸山ダムの建設については、十分過ぎるほどわかっているのだから、強く要望していきたい。

総合内水対策計画の施策について、年度計画のようなある程度目途がわかるものがあると良い。また、どれくらいの効果があるのか出さないと住民に理解されない。

【木曾川上流河川事務所長】

流域の人たちが、本当に安全に暮らせるような、子どもたちや孫たちへ引き継げるような地域を作りたいので、この協議会でアイデアとか新しい施策等出していただきたい。

また、加茂川の浸水被害は木曾川からの逆流が原因との意見がありましたが、逆流するおそれがある場合はゲートを閉鎖するため、逆流は発生していないことをご理解頂きたい。

木曾川（本川）と加茂川（支川）との関係（逆流等）を説明しやすくまとめておく。

案（メニュー）の中で検討しなければいけない部分があるので、先にスケジュールというのがあるが、どの程度の効果があってどのような優先順位になっていく等検討結果を出し、協議したい。

【岐阜県県土整備部次長兼河川課長】

総合内水対策計画の対象期間は5箇年とのことであるが、案件によっては5箇年ではできないものもあり、この計画には短期的、中期的等の時間的なスケジュール管理が必要である。

計画を立てる時には、事業効果を盛り込んで具体的な対策を張り付けていくということが必要なので、県としてもその過程の中で協力をさせていただきたい。

新丸山ダムは現在検証中ではあるが、県としても治水上非常に効果があると認識しているので、一刻も早く検証作業を終わらせ、次に進めるよう国に要望していく。